

取扱説明書

改訂版①

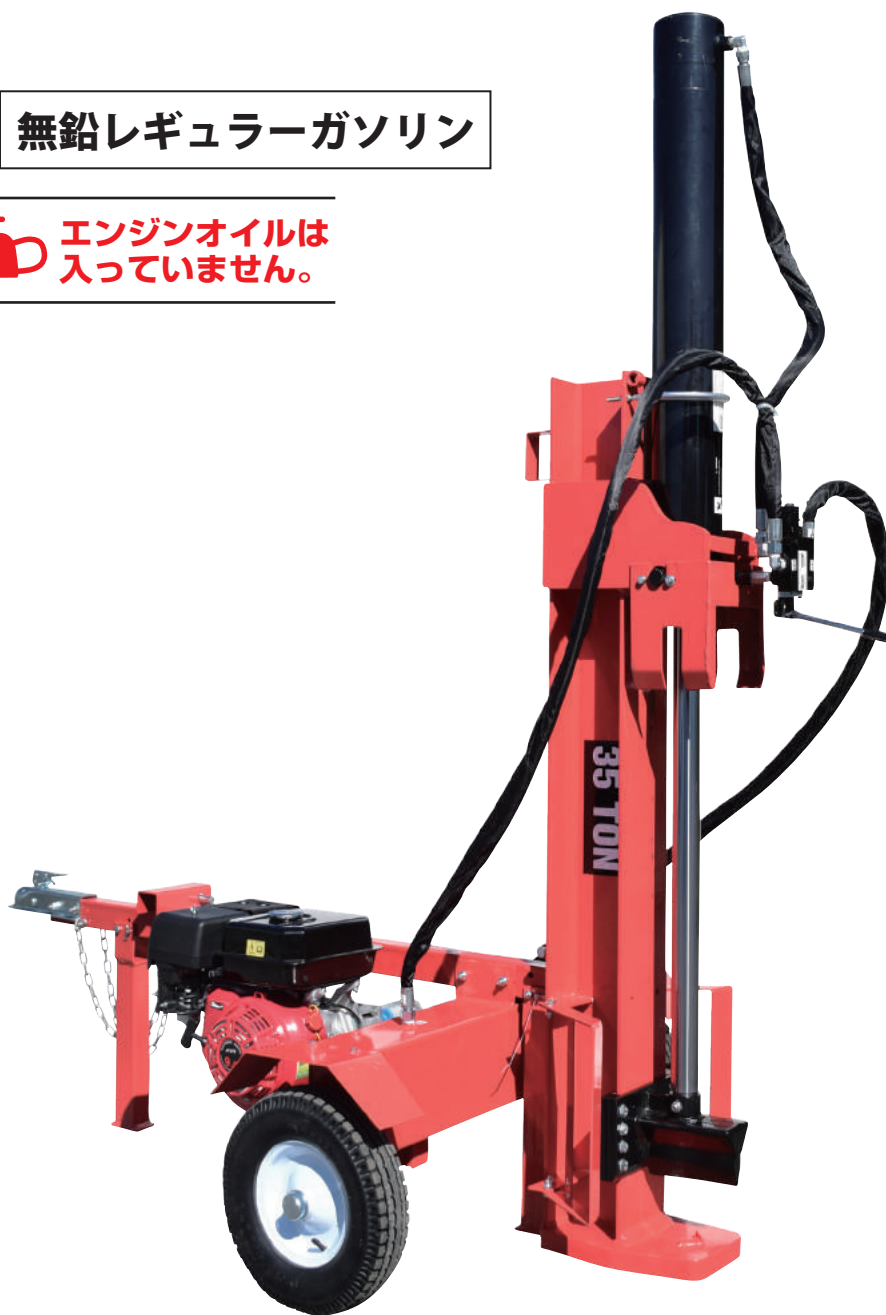
エンジン式薪割機

HG-MWR351M

燃料 無鉛レギュラーガソリン



エンジンオイルは
入っていません。



初めてお使いになる方、他社製品を使用し慣れている方

ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みになり、
内容を理解してからお使いください。

目次

はじめに	3	点検・整備の仕方	28
安全上のご注意 製品を長くご愛顧いただくために		燃料の抜き方	28
安全にお使いいただくために	4	作動油の点検・整備	29
薪割機に係る安全事項	4	エンジンオイルの給油、点検	30
薪割機の作業に係る安全事項	5	潤滑油・グリスの塗布	30
主要諸元	6	エアクリーナーの清掃	31
各部の名称	7	点火プラグの点検・清掃	31
梱包部品一覧表	8	長期間使用しない時	32
組立て	9	故障と思ったら	33
タイヤの取付け	9	保証内容について	38
ヒッチメンバーの取付け	10	お客様ご相談窓口	39
エンジンの取付け	11		
ビーム（H鋼）/シリンダーの取付け	11		
刃ガードの取付け	13		
シリンダーの固定	14		
コントローラの取付け	14		
油圧ホースの接続	15		
ガイドラックの取付け	16		
運転前の点検	17		
燃料の点検・補充	17		
エンジンオイルの点検	18		
作動油の点検	18		
タイヤの点検	18		
潤滑油やグリスの塗布	18		
運転操作の仕方	19		
エンジンのかけ方	19		
エンジンの止め方	20		
作動油の追加給油	20		
コントロールレバーの操作方法	21		
シリンダーを立てる	22		
シリンダーを横にする	22		
薪割作業の操作要領	23		
試運転	23		
薪割操作	24		
快適に薪割りを行うために	26		
径の大きい玉の割り方	26		
十字刃アタッチメントの取付け	27		

はじめに

このたびは薪割機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。
この取扱説明書を熟読しご理解してからご使用ください。
また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。
※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。



警告

誤った取扱をした時に、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。



注意

誤った取扱をした時に、軽傷または家屋・財産などの損害に結びつくもの。



禁止

取扱においてその行為を禁止します。



指示

指示に基づく行為を強制します。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。
注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

溝掘機に係る安全事項



警告



禁止

- ・燃料の臭いがある場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- ・エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・可動している部分の近くに手又は足を入れしないでください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れると火傷することがありますので注意してください。
- ・改造、分解は絶対行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。当社の保証サービスは一切受けられなくなります。
- ・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
- ・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- ・成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。
- ・運転中に回転部及び可動部(出力軸・フライホイール・ファンベルト・プーリー等)に手や足及び衣類を絶対に近づけないでください。触れると巻き込まれ重大な事故の恐れがあります。
- ・運転中は絶対投入口、排出口をのぞき込んだり、排出口の下に入らないでください。
- ・周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。






指示




- ・密閉された場所に本機を放置しないでください。燃料が蒸発し、爆発の危険があります。
- ・自動車で運搬する時は、燃料タンクの燃料を抜き、燃料コックを閉じてください。振動等により燃料が漏れることがあります。
- ・給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
- ・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
- ・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- ・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。
- ・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。
- ・燃料タンクキャップは確実に締めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。
- ・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。
- ・点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料蒸気へ引火する恐れがあります。
- ・運転中に高圧コードや点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。
- ・使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよくご理解の上で使用ください。
- ・停止中でも、直接刃物に触れないでください。怪我をすることがあります。
- ・エンジンの周りに、木くずなど燃えやすいゴミを蓄積させないでください。
- ・点検整備を行なう場合はエンジンを停止してください。思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・点検整備を行なう場合は、エンジンスイッチをオフにしてください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・ガソリンエンジンの点検整備を行なう場合は、点火プラグキャップを外してください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラー部のほか点火プラグの温度も高くなっており、やけどの恐れがあります。
- ・エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がいないことを確認してください。
- ・始動前点検を実施してください。
- ・急傾斜地では使用しないでください。
- ・舗装地、砂利、その他硬い地面で使用しないでください。振動で本体が動き思わぬ事故につながる恐れがあります。




安全にお使いいただくために

薪割機に係る安全事項

 注意	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">指定された用途以外には使用しないでください。
 指示	<ul style="list-style-type: none">燃料はレギュラーガソリンを使ってください。長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜取り、火気のないところに保管してください。給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。部品交換は、純正部品を使用してください。本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。定期点検整備を行ってください。子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

薪割機の作業に係る安全事項

 警告	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">身体の調子が悪い時、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。動作中に回転部分に顔や手足を近づけないでください。ご使用時は、使用者から12m内は危険です、人や動物が入らないようにしてください。夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。2名以上で本機を操作しないでください。使用中に異常が発生した場合は、速やかにエンジンを停止し、異常原因を調べてください。損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。
 指示	<ul style="list-style-type: none">本機はしっかりとした硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置してください。騒音から耳を守るため、適切な保護具を使用してください。本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。割った木につまづかないように、本機の周辺は整理してください。作業は、十分な採光のもとで作業してください。ご使用前には各部のネジ類がしっかり締まっているか確認してください。エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

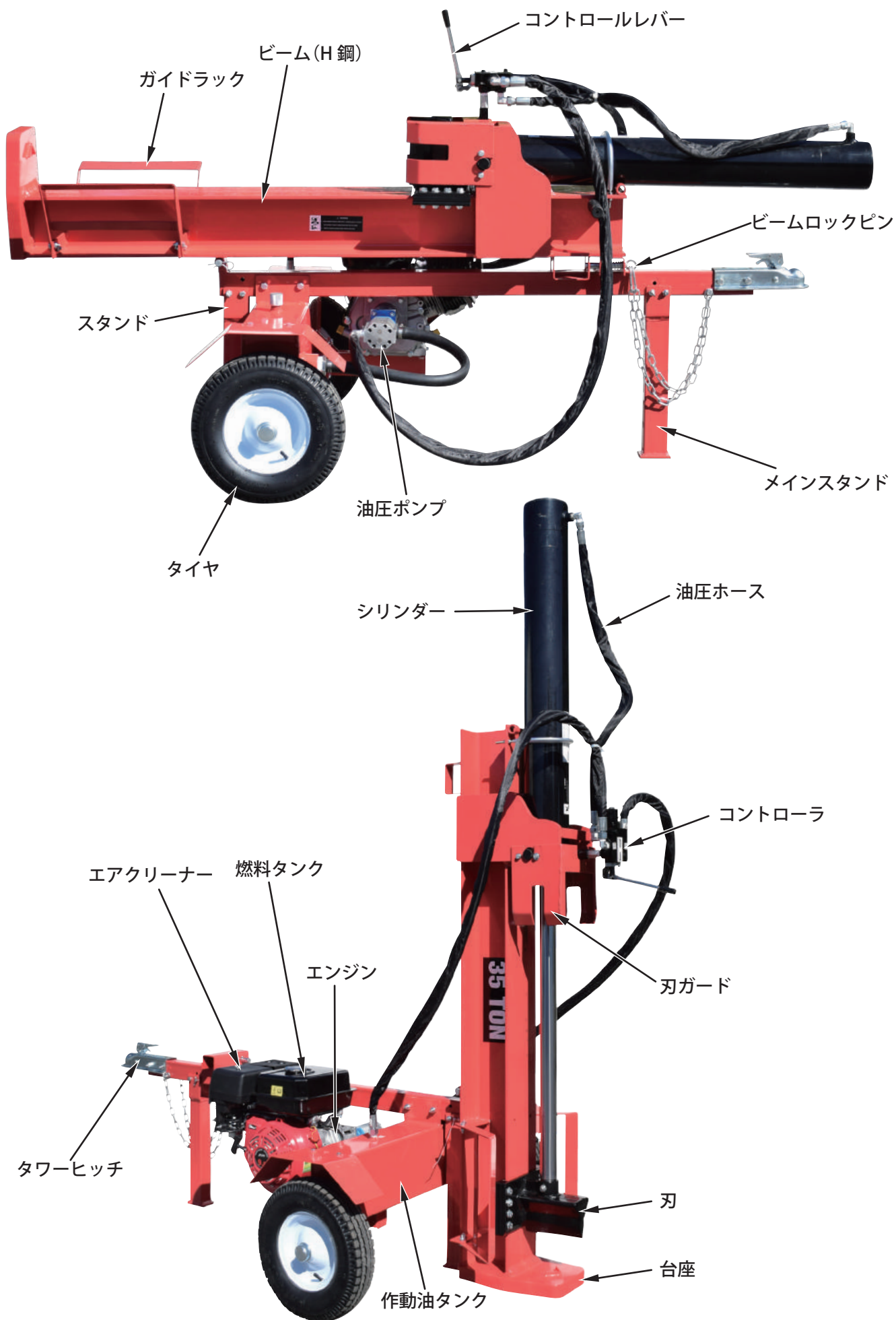
 注意	
 禁止	<ul style="list-style-type: none">機械の稼働部分に絡まるような衣服、装飾品、タオルなどは着用しないでください。エンジンがかかっている状態で本機から離れないでください。
 指示	<ul style="list-style-type: none">すべりにくい靴、手袋、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。シートカバーなどは本機が十分冷めてからかけてください。定期点検整備を行ってください。本機を長時間保管する時は、取扱説明書にしたがって保管してください。

主要諸元

モデル名	HG-MWR351M
馬力	9.0HP
型式	空冷4ストローク
総排気量	270cm ³
粉碎力	35トン
始動方式	リコイルスターター
サイクルタイム	オートリターン 30 秒
最大薪割り長さ	1050mm
薪割り可能	丸太直径 508mm
薪割り方向	縦&横
ウェッジ (刃)	単刃・十字刃アタッチメント
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	5.3L
オイルタンク容量	ガソリンエンジン用オイル0.8L 粘度10W-30
作動油	# 32 18 ~ 20L 入れてください
オイルポンプ圧	24MPa
本体重量 ※エンジン除く	300kg
サイズ ※寝かせた状態	L2410×W1120×H1300mm

※ハイガー産業は、顧客満足度100%を目指し、日々製品(部品やカラーも含め)の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

各部の名称







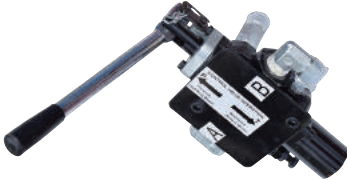










梱包部品一覧表

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取り出し、すべてが完全であることを確認してください。
 2. 装置を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。
 3. 梱包材を慎重に検査し、試用する前に廃棄しないでください。
- 不足している場合は、お手数ですがハイガー産業株式会社までご連絡ください。

警告

・不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

A. エンジン 	B. エンジンステイ 	C. ビーム (H鋼) / シリンダー 	
D. 作動油タンク 		E. ヒッチメンバー 	
F. タイヤ 	G. タイヤカバー 	H. タイヤキャップ 	I. コントローラ 
J. 油圧ホース 		K. スタンド  <p>K-1 K-2</p>	L. ガイドラック 
M. 十字羽アタッチメント 	N. ハンドル 	O. ホースバンド 	Q. ボルト・ナット・ワッシャ  <p>Q-1 Q-2 Q-3 Q-4 Q-5 Q-6 Q-7 Q-8 Q-9</p>
P. カプラー 	R. キーブロック 	S. 割りピン 	T. 工具★  <p>T-1 T-2 T-3 T-4 T-5 T-6</p>

※製造時期により仕様変更になる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。

★付属の工具は、簡易的なものです。

組立て

⚠ 注意

- ・取扱説明書をよく読んで正しく取付けてください。
- ・作業は、自身や周囲の確認をしながら安全に行ってください。
- ・組立ては2人以上で行ってください。
- ・組立て時は、手袋、長袖シャツなどの保護具を使用してください。
- ・平坦で固い地面の上で組立て作業を行ってください。

タイヤの取付け

- 1** 作動油タンクのシャフトにタイヤをはめます。



- 2** カプラーを取付け、モンキーレンチで締付けます。



- 3** シャフトの穴に割りピンを挿込み、抜けないように先端を曲げます。



- 4** 反対側も同じ要領でタイヤを取付けます。

- 5** タイヤキャップを取付けます。きつい場合はキャップのエッジをゴムハンマー等で叩きます。



- 6** タイヤカバーをボルト (Q-4)・ワッシャ (Q-8)・ナット (Q-6) で取付けます。



組立て

タワーヒッチの取付け

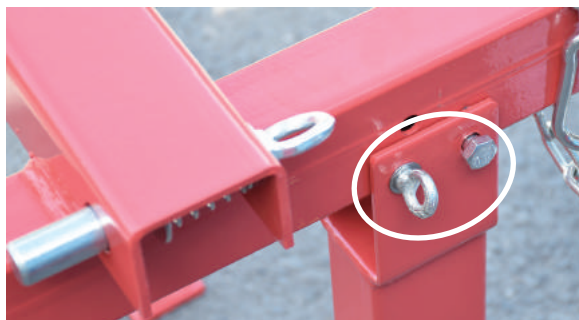
- 1** ボルト・ナット (Q-1) を使用して、作動油タンクにヒッチメンバーを取付けます。
ボルト・ナットはよく締付けてください。



- 2** スタンドに仮留めしているボルト・ナット、固定ピン・スナップピンを一旦外します。



- 3** タワーヒッチとスタンドの穴を合わせ、ボルトとピンを挿込みます。



- 4** ナットとスナップピンで固定します。



- 5** スタンド取付位置(B)側も同様に取付けます。



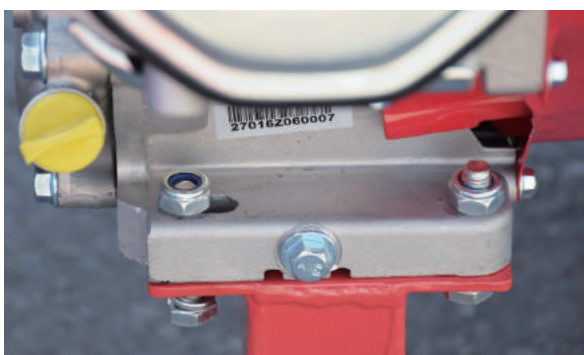
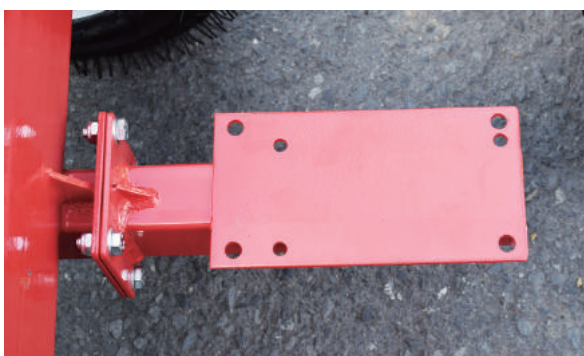
組立て

エンジンの取付け

- 1 エンジンステイを作動油タンクに、ボルト(Q-3)・平ワッシャ(Q-7)・ナット(Q-5)で取付けます。



- 2 ステイにエンジンを乗せ、ステイの穴とエンジンの取付穴を合わせ、ボルト(Q-2)・スプリングワッシャ(Q-9)・平ワッシャ(Q-7)を下から通し、ナット(Q-5)で固定します。

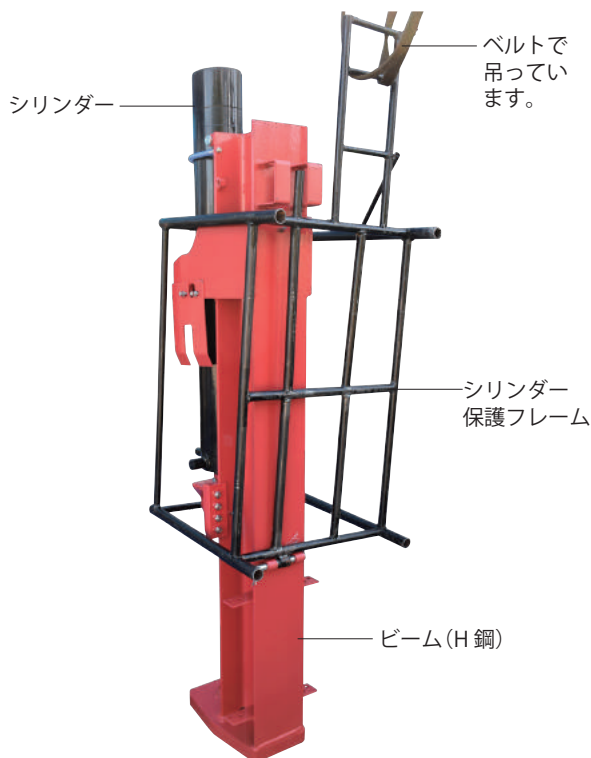


ビーム(H鋼)/シリンダーの取付け

⚠ 注意

- ・シリンダーを立てる際は、転倒に十分ご注意ください。
- ・万が一のことを考え、ベルト等でシリンダーを保持しながら作業を行ってください。
- ・必ず作業は2人以上で行ってください。

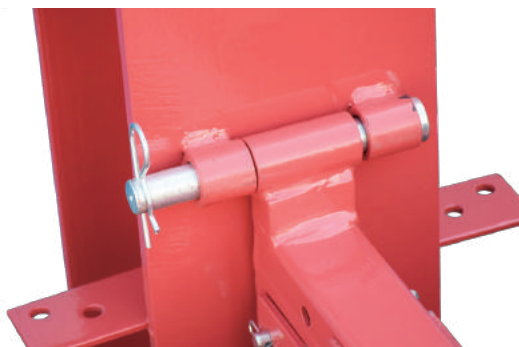
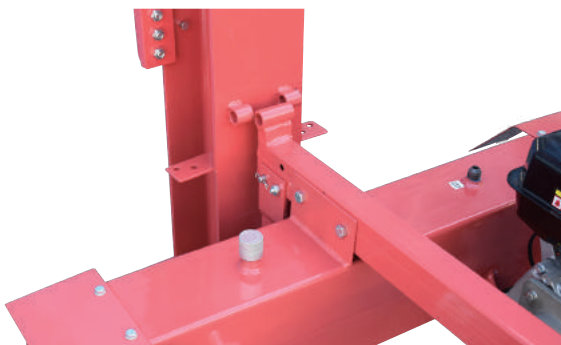
- 1 シリンダーを立たせます。倒れないように十分ご注意ください。



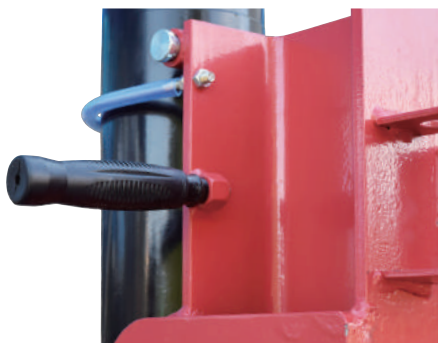
- 2 シリンダー保護フレームを外します。

組立て

3 タワーヒッチとシリンダーを連結します。



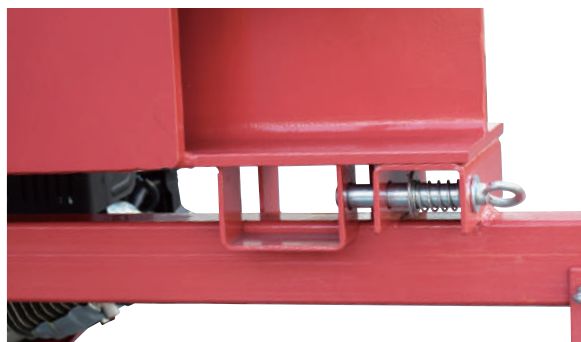
4 ビーム(H鋼)にハンドルを取付けます。



5 ビーム(H鋼)をゆっくり倒します。
2人以上で行ってください。



6 ビームロックピンを引っ張り、ビーム(H鋼)を確実に固定します。



組立て

刃ガードの取付け

- 1** 刃ガードのボルト・スプリングワッシャ・平ワッシャを一旦外します。

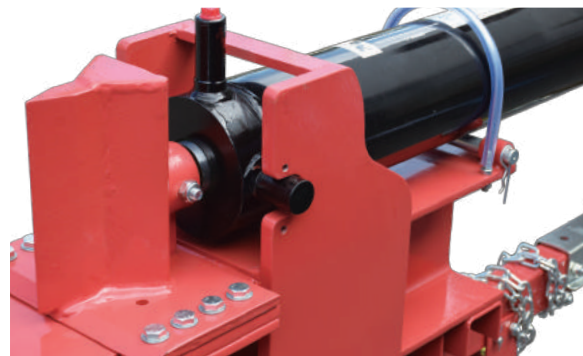
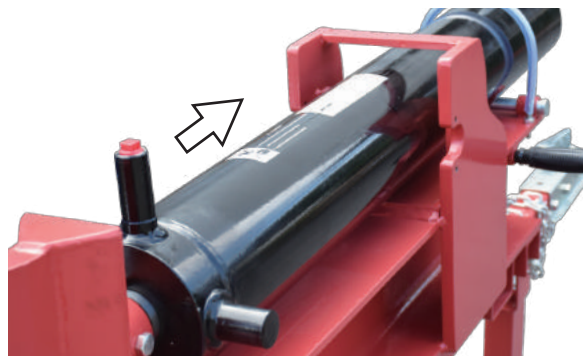


- 2** 刃の両サイドのスナップピンを外し固定ピンを外します。

※この固定ピンは、運搬時にシリンダーが動かないように固定するためのものです。通常は使用しません。



- 3** シリンダーをスライドさせます。



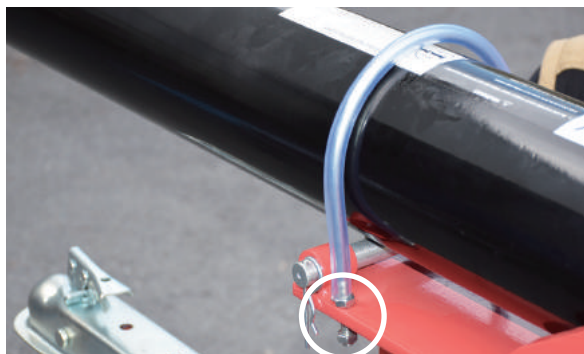
- 4** 刃ガードの取付穴とビーム（H鋼）の取付穴の位置を合わせボルト（Q-3）・スプリングワッシャ（Q-9）・平ワッシャ（Q-7）で固定します。



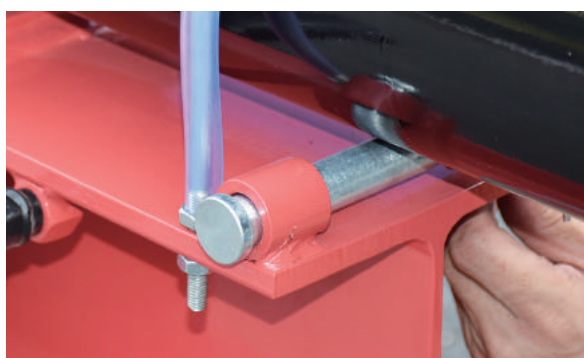
組立て

シリンダーの固定

- 1** シリンダーを押さえているU金具のナットが緩んだ状態です。



- 2** 左右均等に締付けます。



コントローラの取付け

- 1** コントローラ取付部のキャップを外します。



- 2** シールテープを巻き、取付けます。



- 3** モンキーレンチでしっかり締付けます。

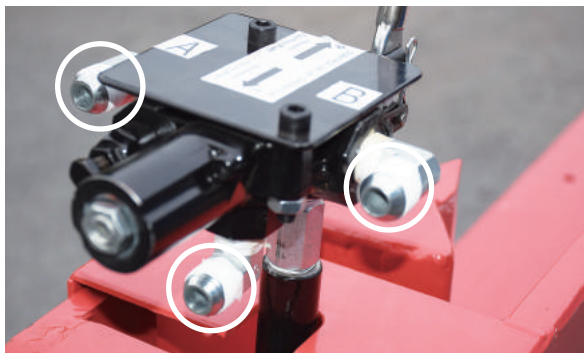


組立て

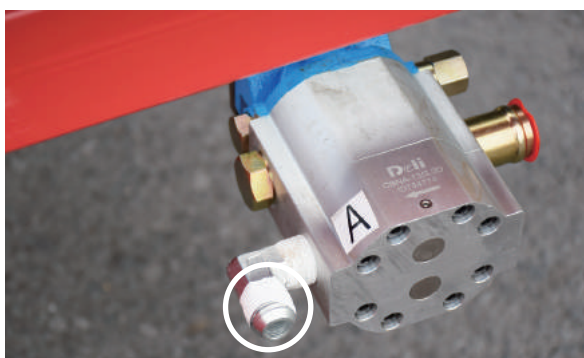


油圧ホースの接続

1 コントローラの各接続部にシールテープを巻きます。



2 ポンプの接続部にシールテープを巻きます。



●油圧ホース コントローラ-シリンダー接続ホース



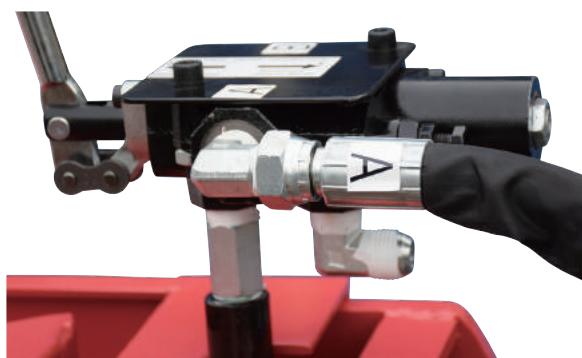
3 コントローラ-シリンダー接続ホースを接続します。



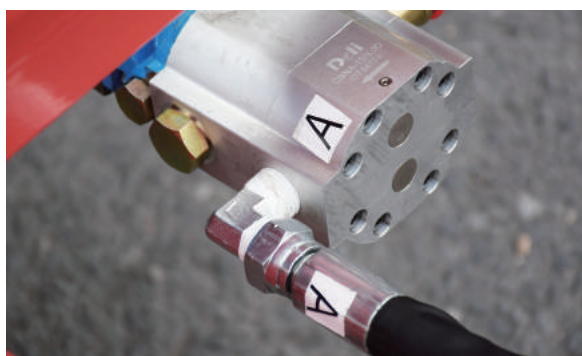
4 シリンダーホース接続部にシールテープを巻き、接続します。



5 コントローラのAとホースAを接続します。

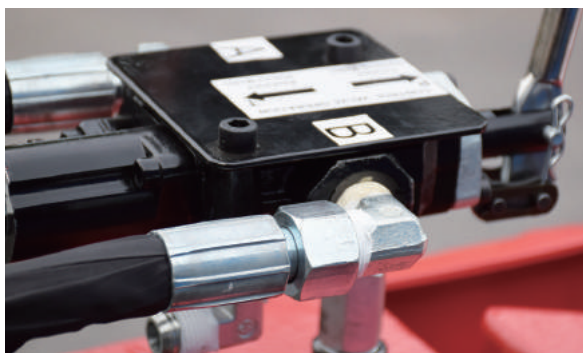


6 ホースAをポンプAと接続します。



組立て

- 7** コントローラのBとホースBを接続します。

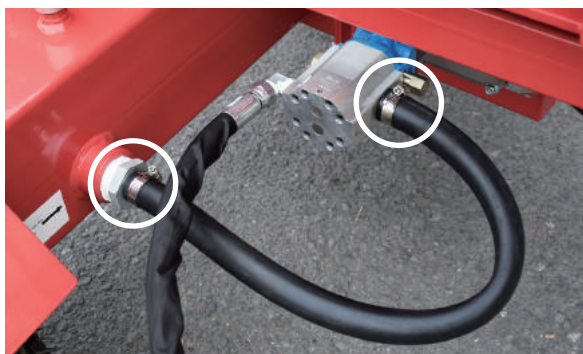


- 8** ホースBを作動油タンクBと接続します。



- 9** すべての接続部分をモンキーレンチで締付けます。

- 10** ポンプ-作動油タンク接続ホースを写真のように接続し、ホースバンドで締付けます。



ガイドラックの取付け

- 1** ガイドラックの取付穴を合わせ、ボルト (Q-3) ・ワッシャ (Q-7) ・ナット (Q-5) で固定します。



運転前の点検

警告



禁止

- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。



指示

- ・燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- ・燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・燃料キャップは確実に締めてください。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のない所に保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内にホコリや水が入らないように注意してください。

注意



指示

- ・燃料キャップは確実に締めてください
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

燃料の点検・補充

使用燃料	自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）
燃料タンク	5.3L

燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。
出荷時は入っていません。

点検手順

- 1 燃料タンクキャップを外し、液面を見て残量を確認します。



- 2 少ないときは上限の位置まで補給します。

- 3 点検後、燃料キャップをしっかり締めます。

給油方法

- 1 無鉛ガソリンを少しずつこぼさないように、上限（赤い目印）の位置まで給油します。



赤い目印

- 2 給油が終わったら燃料キャップをしっかり締めます。

運転前の点検

エンジンオイルの点検

エンジンオイルは出荷時には入っていません。必ず給油してください。また、工場ですり運転をしているため、若干オイルが内部に残っている場合がありますので、給油の際は、こまめにオイルゲージで確認しながら給油してください。

■点検手順

- 1 本体を水平な場所に移動させ、オイル給油キャップを外し、オイルゲージに付着したオイルを布などで拭取ります。



- 2 オイル給油キャップを一旦締付け、再度外します。
- 3 オイルが、オイルゲージのオイル量範囲(中央)まであるか点検します。



- 4 オイル量が少ない時は、新しいオイルを補給します。漏斗などを使うと入れやすくなります。



推奨オイル	4サイクルガソリンエンジン専用 100%化学合成油 SAE10W-30 ・寒冷地は5W-30
オイル容量	0.8L

作動油の点検

エンジンオイルの量、汚れを確認します。出荷時は入っていません。

■点検手順

- 1 本体を水平な場所に移動させ、オイル給油キャップを開け、目視で確認します。少ないようであれば、追加給油します。



タイヤの点検

タイヤのパンクは、重大な人身事故を引き起こす恐れがありますので、十分にご注意ください。

■点検手順

- 1 目視にて破損や亀裂が有無を確認します。パンク、亀裂が見つかった場合は、修理または新品と交換してください。
- 2 タイヤの空気圧を確認します。空気圧は1.5kgf/cm² (150kpa) になります。



潤滑油やグリスの塗布

可動部部分には、使用前に潤滑油やグリスを塗布する習慣をつけましょう。(詳細は、P30参照)

運転操作の仕方

警告



禁止

- ・燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので高温部に触れないでください。



指示

- ・本機はしっかりとした硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置してください。
- ・硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた状態で作業を行ってください。
- ・エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- ・本機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。
- ・少しの移動でもエンジンを停止してください。

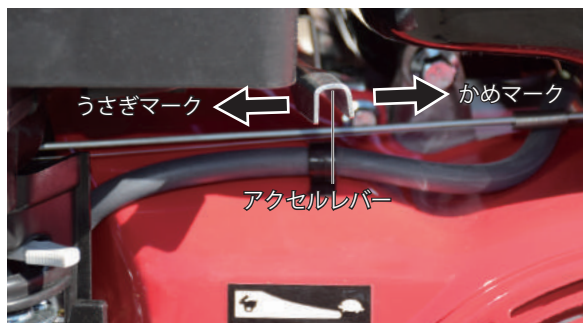
注意

- ・エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

エンジンのかけ方

出荷時には燃料、エンジンオイル、作動油は入っていません。給油後に操作をしてください。

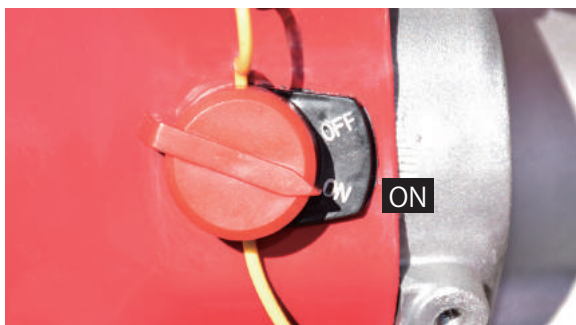
- 1 アクセルレバーを、「うさぎマーク」と「かめマーク」の間にします。



- 2 チョークつまみを左いっぱい(閉)にし、ガンリンコックを右いっぱい(ON)にします。



- 3 エンジンスイッチを ON にします。



- 4 本機をしっかり保持し、リコイルスターターロープを引きます。

※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。おおよそ 60～70cm 引きます。(ロープは一杯に引ききらないでください。)引きが少ないとエンジンはかかりません。



注意

何度もチョークを閉じたままロープを引くと、点火プラグを濡らしてしまいます。万が一、濡らしてしまった場合は、P.34 をご覧ください。

運転操作の仕方

👉 リコイルの引き方ポイント



※写真は別機種

- ① 良い例：約 70cm 引いている所。
- ② 良い例：穴に対してロープが真っ直ぐ。
- ③ 悪い例：抵抗がありエンジンがかかりにくく、ロープが摩擦で切れます。

■ エンジンがかかったら

- 1 エンジンがかかったらすぐにチョークつまみを右(開)に戻します。
- 2 数分慣らし運転をした後、アクセルつまみを「うさぎマーク」側にし、5分程度エンジンを回してください。
- 3 薪割作業を行います。

エンジンの止め方

- 1 エンジンスイッチを「OFF」にします。
- 2 ガソリンコックを左いっぱい(OFF)にします。

👉 エンジンがかからない時

下記手順をお試してください。

- 1. 点火プラグキャップを外します。
- 2. 点火プラグを外します。
- 3. リコイルハンドルを数回引いて、シリンダ内を換気します。
- 4. 点火プラグを取付けます。
- 5. 点火プラグキャップを取付けます。
- 6. チョークつまみを右(開)にします。
- 7. リコイルスターターを軽く引き、重く感じたところで一旦止め、ハンドルを一度戻してから、素早く引くとエンジンがかかります。

作動油の追加給油

エンジンをかけると作動油が循環し、油圧システム全体に行き渡るため、作動油タンク内の作動油が減少しますので、作動油を追加給油します。

- 1 作動油を追加給油します。



- 2 組立て時におおよそ15Lを給油していますので、作動油量の合計は、おおよそ18~20Lとなります。おおよそ3~5Lの追加となります。

使用作動油	ハイドロリックオイル 油圧用オイル32番
作動油量	15L(エンジン始動後に3~5L追加) 合計で18~20L

- 3 運転操作時は、作動油タンクキャップを少し緩め、タンク内の空気が抜けるようにします。運転操作が終わったら、作動油タンクキャップを閉めます。

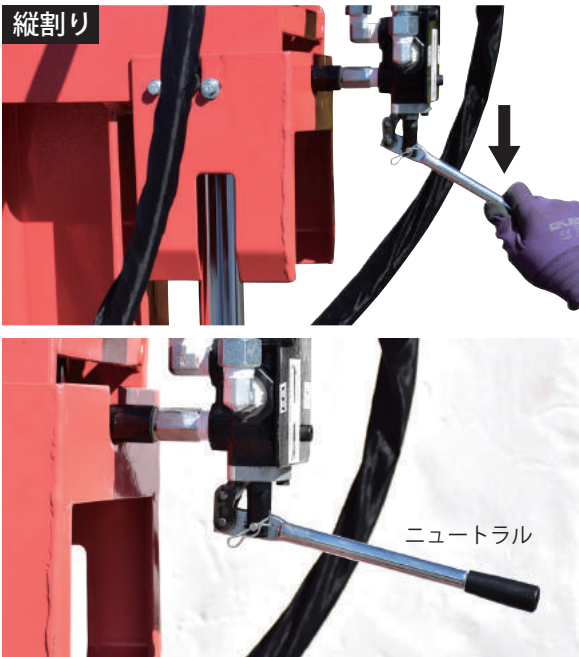


運転操作の仕方

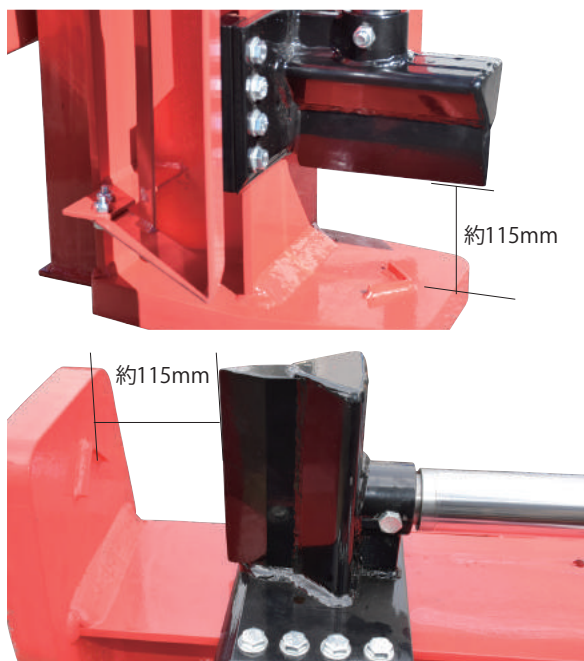
コントロールレバーの操作方法

薪割操作は、コントロールレバーで行います。

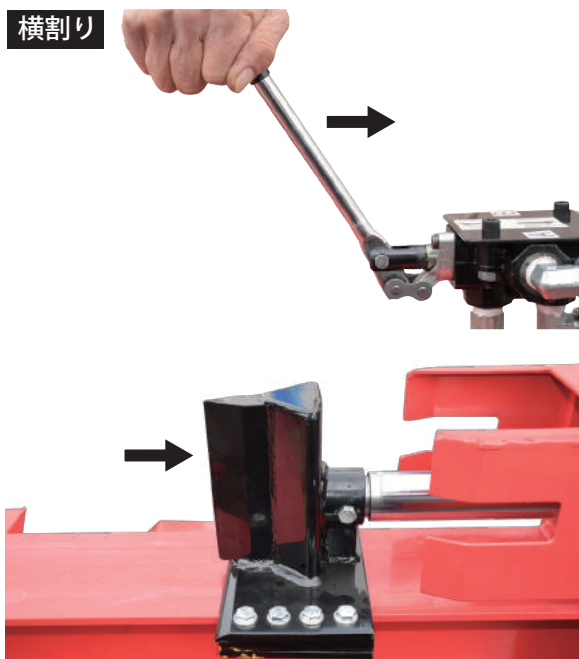
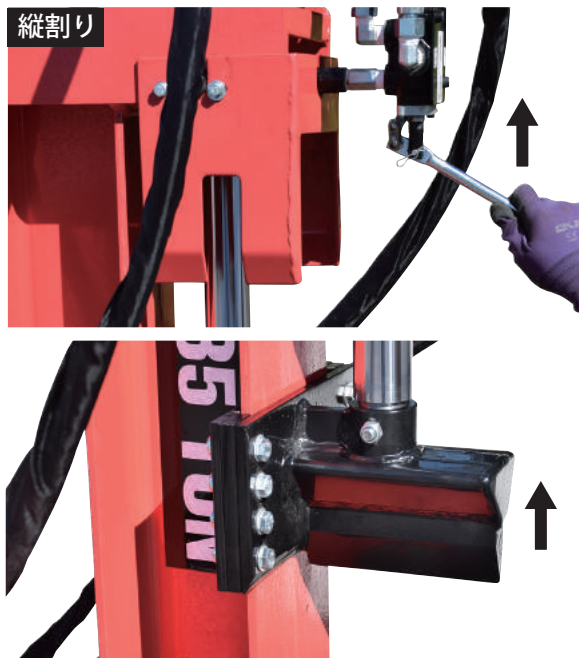
- 1 コントロールレバーを下降（前進）方向に倒すと、刃も前進します。コントロールレバーから手を放すと、レバーはニュートラルの位置に戻り、刃はその状態で停止します。



- 2 コントロールレバーを下降（前進）方向に倒し続けても、刃が台座より、約 115mm まで近づくと刃の下降（前進）は自動的に停止します。



- 3 コントロールレバーを上昇（後進）方向に倒すと、刃も上昇（後進）します。コントロールレバーから手を放しても、刃は上昇（後進）を続け、最大上昇（後進）地点で停止します。



- 4 刃の上昇（後進）動作を中断させる時は、操作レバーをニュートラルにします。刃は上昇（後進）動作を停止します。

運転操作の仕方

警告

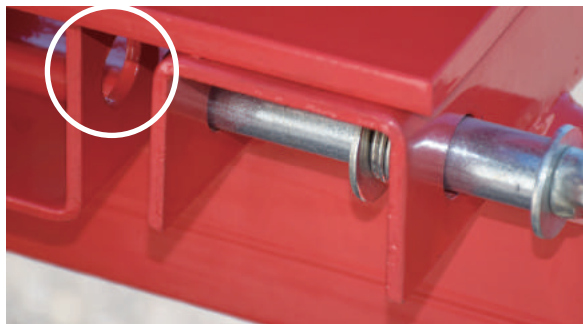
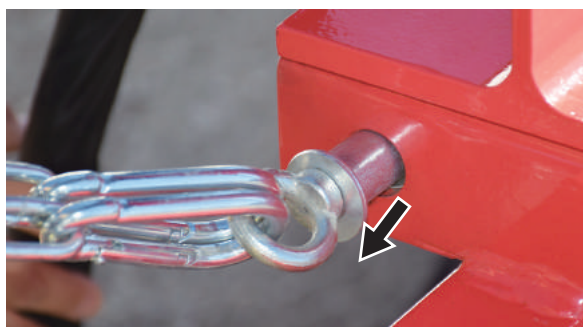
- 本機はしっかりとした硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置してください。
- 硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた状態で作業を行ってください。
- 万が一薪割機が動き出すのを防ぐため、タイヤは常に輪止めなどで固定してください。

シリンダーを立てる

警告

- シリンダーを立てる、倒す作業は、必ず大人3人以上で行ってください。
本機の転倒などによる重大な事故につながる恐れがあります。

- 1 タイヤに輪止めをしセットします。
- 2 タワーヒッチとビーム（H鋼）を留めているビームロックピンを引張り解除します。



- 3 1人はビーム（H鋼）を押さえ込み、2人でシリンダーとビーム（H鋼）を少しずつ持ち上げていきます。手や足を挟まないように十分に注意ください。



シリンダーを横にする

- 1 立てる時と逆に手順で慎重に行います。

薪割作業の操作要領

警告

- ・安全注意事項に注意しながら本機を操作してください。
- ・エンジン回転中には絶対に本機を離れないでください。
- ・エンジン回転中には本機を移動しないでください。
- ・安全靴を履いてください。
- ・保護メガネも忘れずにかけてください。
- ・作業のしやすい服を着用してください。ネックレス、不適切な服装などは本機の稼動部分に巻き込まれやすいため危険です。
- ・本体はしっかりとした硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置してください。
- ・硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた状態で作業を行ってください。
- ・万が一本機が動き出すのを防ぐため、タイヤは常に輪止めなどで固定してください。
- ・長い薪は割る前に適切な長さに切ってください。
- ・昼間または視界の良い明るいところで作業してください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- ・ガソリンが蒸発しやすく、非常に燃えやすいため、ガソリンの保管及び使用は十分に気を付けてください。
- ・ガソリン補給時に手及び作業服に付いた場合は、すぐ水で洗ってください。
- ・密閉した部屋でガソリン補給はしないでください。
- ・エンジン運転中、またはストップ直後に温度まだ高い場合にガソリン補給はしないでください。
- ・エンジンストップしてから少なくとも5分間以上を経ってから、ガソリン補給を行ってください。
- ・燃料タンク容量以上にガソリン補給はしないでください。
- ・燃料タンクキャップを常にしっかりと締めてください。
- ・ガソリンが地面に漏れた場合は、本機表面のガソリンをきれいに拭いて、他の所に本機を移動して、5分待ってから作業スタートしてください。
- ・ガソリン保管は火気、電気機械、燃えやすい物と離して保管してください。

試運転

- ・運転操作のしかたを十分理解してください。
- ・運転前の点検をしてください。
- ・警告事項を読み必ず守ってください。

1 本体はしっかりとした硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置してください。
柔らかい地面に設置し作業を行うと、圧力をかけた時に本機が転倒したり、台座が破損したりする恐れがあります。

2 タイヤに輪止めをかけてください。

注) 柔らかい地面の場合は、必ず鉄板など硬いものを敷いてください。



3 各部のネジの緩みを点検し、緩みがあれば増し締めを行います。

4 P.19の運転操作の仕方にしたがってエンジンを始動します。

5 油圧システム中の気泡を排出させるため、コントロールレバーで刃を最上限から最下限まで移動させ、この動作を15回繰り返します。
これにより、作動油が油圧システム全体に均等に行き渡ります。作動油量を確認し、少ない場合は、P.20の作動油の追加給油を参考に追加給油します。

6 各部からの油もれを点検します。
オイルのにじみは、にじみが進行しない範囲であれば問題ありません。

薪割作業の操作要領

薪割操作

本体はしっかりとした硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置し、タイヤに輪止めをかけてください。

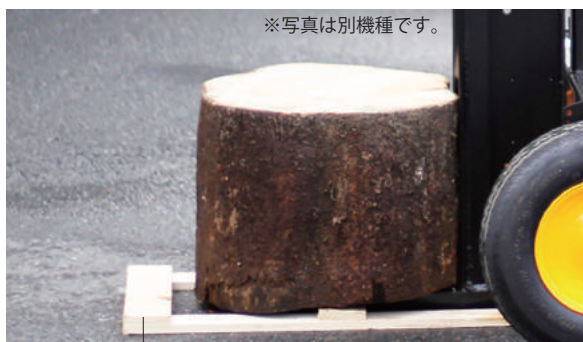
不安定な場所や軟らかい地面で作業を行いますと、ビーム（H鋼）や台座に異常な負荷がかかり、破損事故が起こることがあります。保証対象外になりますので、十分ご注意ください。

注) 軟らかい地面の場合は、必ず鉄板など硬いものを敷いてください。



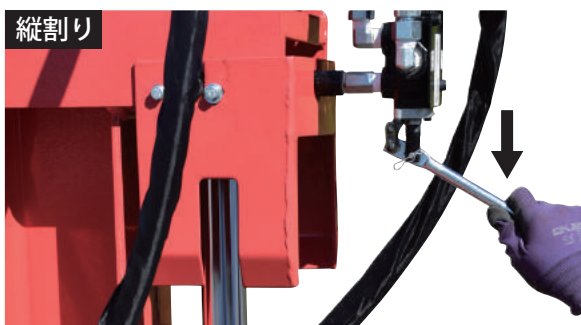
1 玉を本体に置きます。

玉が台座よりはみ出る場合は、同じ高さの台を用意し、玉が安定するようにします。

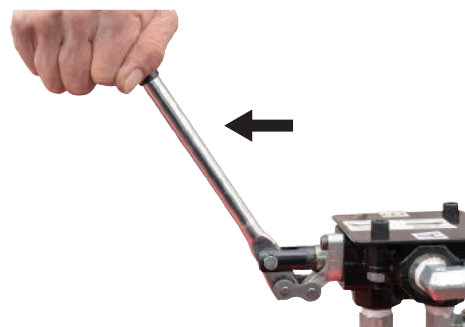


台座と同じ高さの台を用意します。

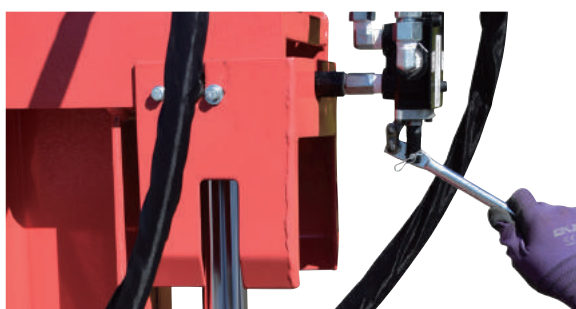
2 コントロールレバーを刃が出る方向へ倒すと、その間刃が動き玉を割ります。



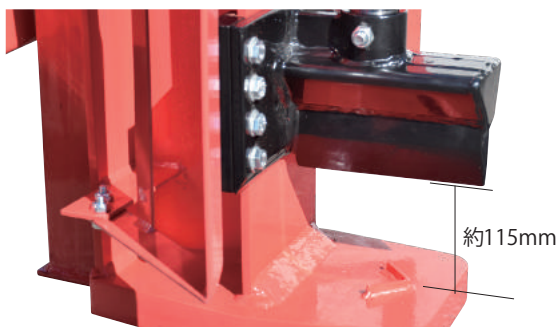
横割り (Horizontal cut)



3 薪が割れたところでコントロールレバーから手を放すと、コントロールレバーはニュートラルに戻り、刃の下降(前進)は止まります。



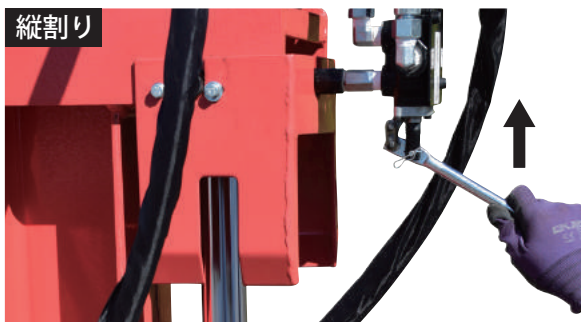
4 コントロールレバーを下降(前進)方向に倒し続けても、刃が台座より、約115mmまで近づくと刃の下降(前進)は自動的に停止します。



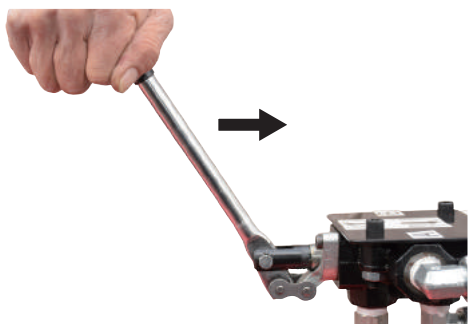
薪割作業の操作要領

5 コントロールレバーを、刃が戻る方向に倒すと刃が戻り始めます。

縦割り



横割り



6 コントロールレバーから手を放しても刃は戻り続け、ピストンがシリンダーに格納された時点で停止します。

縦割り



横割り



警告

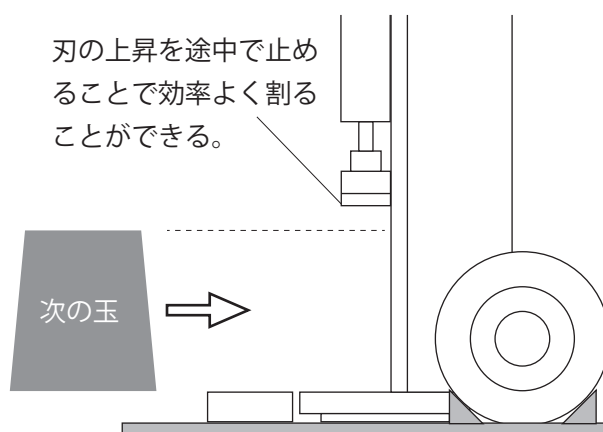
- 玉を本機にセットする時は、常に玉の切断面ではなく、側面を持つ習慣を付けてください。
- 足や手で玉を固定し、薪割作業の操作をしないでください。圧力が非常に大きいため、重傷を負う可能性があります。
- 玉を置く人が薪割機を操作してください。
- 一回に二つの玉を同時に割ることはしないでください。
- 玉にヒビが入っているところには絶対に指を置かないでください。

注意

- もし割れない場合、3秒以上加圧し続けしないでください。それ以上、加圧し続けると、本機に大きな力が加わり、シリンダーやビームH鋼（H鋼）が損傷したり湾曲する恐れがあります。万一故障した場合は、保証の対象外となります。

7 効率的に玉を割るには、次に割る玉の高さまで刃が戻ったところで、コントロールレバーを放しニュートラルにし刃の上昇を止め、次の玉を置きコントロールレバーを倒します。この作業を繰り返すことで、スピーディーに玉を割ることができます。

刃の上昇を途中で止めることで効率よく割ることができる。



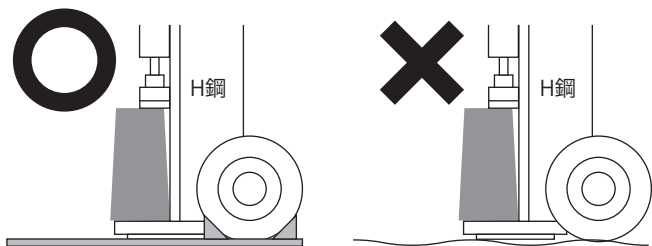
薪割作業の操作要領

快適に薪割りを行うために

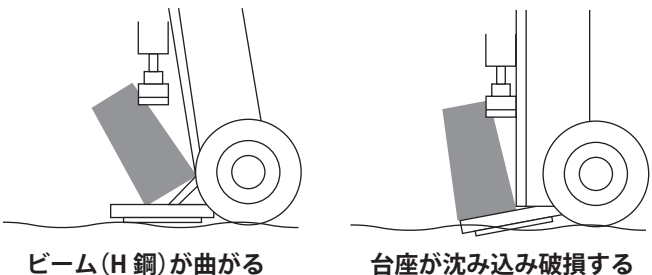
■玉切り直後で木口が湿っている間が割りやすく、乾くと割りにくくなっていきます。

■節がある場合は、刃に節があたらないように玉を置く位置をずらします。

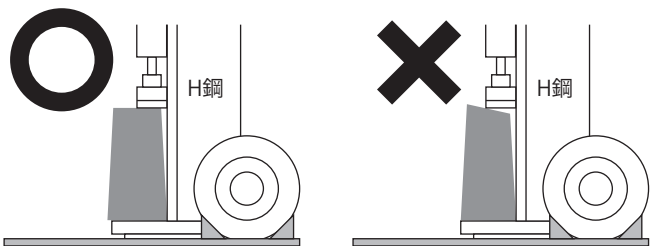
■本体はしっかりとした硬い地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置し、タイヤに輪止めをかけてください。



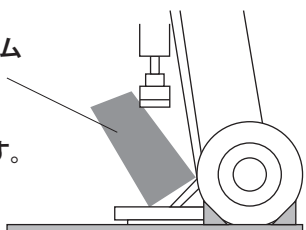
不安定な場所や軟らかい地面で作業を行いますと、ビーム（H鋼）や台座に異常な負荷がかかり、破損事故が起こることがあります。保証対象外になりますので、十分ご注意ください。



■硬い玉を割る時は、木口が、刃部の全面に均等に当たるように置きます。

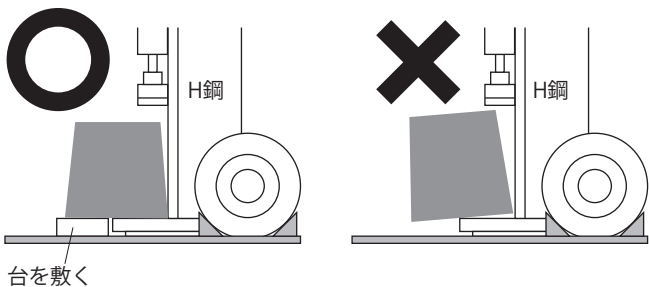


注) 油圧の力が玉をビーム（H鋼）側に押し当ててしまい、ビーム（H鋼）を簡単に曲げてしまいます。

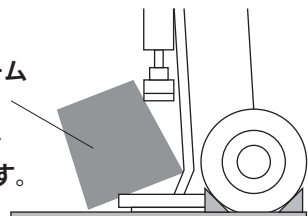


■縦置きで玉を割る時には、玉が揺れないようしっかり置きます。もしも玉が台座よりはみ出し不安定な場合は、台座と同じ高さの台を敷き、安定させてから作業を行ってください。

注) 不安定なまま作業を行うと、ビーム（H鋼）に思わぬ負荷がかかり、ビーム（H鋼）を曲げてしまいます。



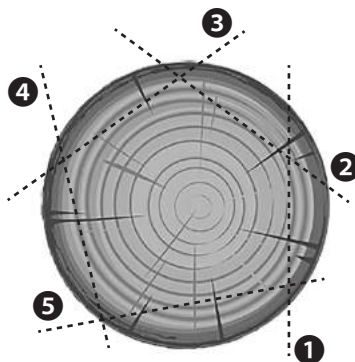
注) 油圧の力が玉をビーム（H鋼）側に押し当ててしまい、ビーム（H鋼）を簡単に曲げてしまいます。



径の大きい玉の割り方

玉の中心は、木の繊維が広い面積でくっつきあっていて最も強いため、端から割っていきます。狭い面積でくっつきあっている弱い部分（木の端）に刃を入れることで、少ない力で効率的に割ることが出来ます。

外側から削ぐように割っていき、中心へと進めていきます。

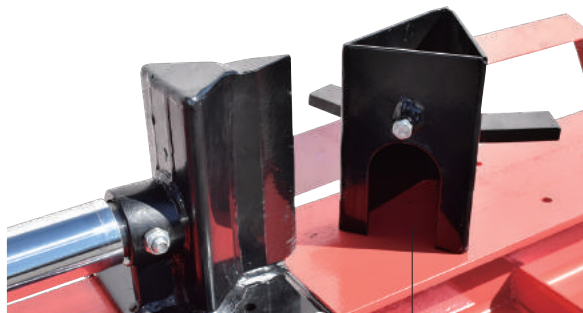


薪割作業の操作要領

十字刃アタッチメントの取付け

比較的柔らかい玉を割る際は、十字刃の方が効率よく割ることが出来ます。

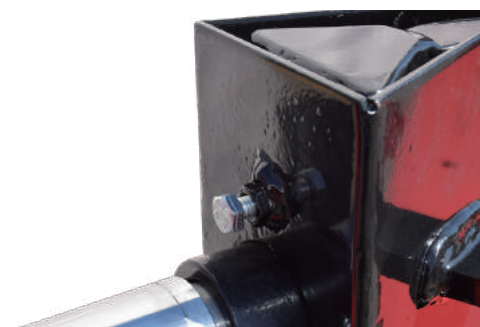
1 単刃に十字刃アタッチメントをかぶせます。



十字刃アタッチメント



2 ボルトを締付けます。



👉 木は乾燥する前に割る

木は、切り出された瞬間から水分が抜けて乾燥していき、乾燥しているほど、強度が上がります。このことから、特に広葉樹は、切って時間をおかずに、薪割りをした方が楽に割れるということになります。針葉樹、特にスギやヒノキなどは乾燥していても楽に割れます。

👉 薪ストーブに最適な樹種

広葉樹の中でも堅木のミズナラ・クヌギ・ニレ・カシ・リンゴ・カバ・サクラ・ケヤキなどが適しています。広葉樹は堅くて火持ちがよく薪にした時に煤（すす）が出にくいからです。針葉樹の場合は軟木のスギ・ヒノキなどが良いとされます。アカマツは非常にヤニが多いため、薪には適しません。

👉 薪はなぜ割る？ なぜ乾燥させる？

薪は、割ることで乾燥しやすくなり、火付き・火持ちがよくなります。乾燥していない薪は、火力が上がりません。それは薪に残っている水分が蒸発してから薪が燃えるためです。まず蒸発にエネルギーが奪われ、その分の熱は暖房に利用できないからです。立ち木の含水率は50%以上で、薪ストーブに使う薪の最適な水分量は15%~20%前後です。専用の機器で水分量を量ることをおすすめします。

点検・整備の仕方

警告

- ・作業場の清潔、安全を常に確保してください。足を引っかける一切の障害物を撤去してください。
- ・粉砕機の作業場には必ず清潔、安全を守ってください。ガラスや木材、燃料など燃えやすい物は必ず離して保管してください。
- ・点検整備をする時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- ・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。
- ・本体は水平な場所に設置し、作業を行ってください。
- ・作業は、十分な採光のもとで作業してください。
- ・排気ガスには十分に注意し、換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- ・点検整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。
- ・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

対象部品	点検項目	運転前の点検	初回の1ヵ月後又は 20時間運転後	3ヵ月毎又は 50時間運転毎	6ヵ月毎又は 100時間運転毎	1年毎又は 300時間運転毎	掲載ページ
燃料	ガソリン量、漏れ	●					P.17
エンジンオイル	オイル量	●					P.18
	交換		●	●			P.30
作動油	オイル量	●					P.18
	交換				●		P.29
オイルフィルタ	汚れ				●		P.29
	洗浄				●		P.29
エアクリーナー	清掃			●			P.31
	交換					●	P.31
点火プラグ	清掃				●		P.31
	交換					●	P.31

燃料の抜き方

1 燃料タンクのキャップを外し、タンク内の燃料を手動のポンプ等で抜きます。

2 ガソリンコックを右(ON)にします。



3 O部分の斜めについているボルトを緩めて、ガソリンを容器に受けます。キャブレターの燃料を抜くことができます。



4 燃料を抜き終わったら、緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。

点検・整備の仕方

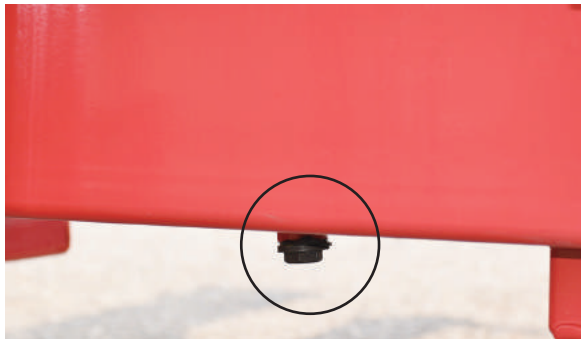
作動油の点検・整備

【作動油の交換】

作動油は、100 時間毎か、または半年に1 回行ってください。

■作動油交換の手順

- 1 廃油受けを準備します。(20L 以上入るもの)
- 2 作動油タンクの底にあるドレンボルトを緩め、廃油受けに排出させます。



- 3 排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。
- 4 作動油タンクのオイルキャップを開け、ごみや水分など異物が混入しないように新しい作動油を入れます。



使用作動油	ハイドロリックオイル 油圧用オイル32番
作動油量	15L(エンジン始動後に 3~5L 追加) 合計で 18~20L

【オイルフィルタの洗浄】

オイルフィルタは、100 時間毎か、または半年に1回行ってください。

■洗浄方法の手順

- 1 作動油の透明ホースを外し、オイル出口のナットを外します。



- 2 オイルフィルタを取出します。
- 3 灯油などでオイルフィルタに付着したごみを取除きます。
- 4 オイルフィルタを戻しナットを締めます。

【作動油の動作温度】

作動油の粘度は、温度が上昇するほど低くなります。温度が上昇し過ぎた場合は、油の潤滑性が悪くなり、劣化を促進したりポンプ効率が悪くなります。作動油の使用温度は+70℃の範囲内でご使用ください。

点検・整備の仕方

エンジンオイルの給油、点検

【エンジンオイルの交換】

エンジンオイルは、初回20時間、以降50時間毎に行ってください。

■エンジンオイル交換の手順

- 1 廃油受けを準備します。
- 2 本機を水平な場所で水平な状態にします。
- 3 オイル給油キャップを外すと、オイルが抜けやすくなります。
- 4 ドレンボルトを外してオイルを抜きます。



- 5 排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。
- 6 新しいエンジンオイルをレベルゲージの中央まで入れます。



推奨オイル	10W-30 ・寒冷地は5W-30
オイル容量	0.8L



- 7 給油後は、確実にキャップを締めます。

潤滑油・グリスの塗布

本機の使用後は各部を清掃し、可動部分は、潤滑油やグリスを塗布します。

- 1 シリンダやビーム（H鋼）に付着した木屑等を取除き、可動部に潤滑油やグリスを塗布します。
- 2 スタンドに潤滑油やグリスを塗布します。
- 3 メインスタンドとビーム（H鋼）の接続部に、潤滑油やグリスを塗布します。



- 4 タイヤシャフト部に、潤滑油やグリスを塗布します。

点検・整備の仕方

エアクリーナーの清掃

エアクリーナーのフィルタを清掃します。

■清掃手順

- 1 エアクリーナーカバーの蝶ネジを外し、カバーを外します。



- 2 エアフィルタの汚れをエアブロー等で吹き飛ばします。
汚れがひどい場合は、エアフィルタの交換が必要になります。



- 3 取外しと反対の手順で取付けます。

点火プラグの点検・清掃

点火プラグを外し、電極の点検・清掃を行います。

■使用工具

プラグレンチ（付属）、ワイヤブラシ

- 1 点火プラグキャップを取外し、点火プラグをプラグレンチで取外します。



- 2 点火プラグをワイヤブラシで清掃します。



隙間は
0.7mm～0.8mmが
適切です。



適応 点火プラグ	F7RTC
	BPR7ES(NGK)
	W22EPR-U(DENSO)

- 3 取外しと反対の手順で取付けます。

長期間使用しない時

薪割機を長期に渡り使用しない時は、次のお手入れを行ってください。

- 1** 保管するときは、平坦で堅い地面に水平に横置きにし、タイヤ止めをしてください。
- 2** 燃料タンク、キャブレタの燃料を抜きます。
(P.28参照)
- 3** エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで回し、キャブレター内の燃料を使い切ります。
- 4** エンジンスイッチを「OFF」にしてください。
- 5** 点火プラグキャップを外します。
- 6** チョークつまみを右（開）にします。
- 7** 各部ボルトの破損、腐食、緩みの点検をします。
- 8** 防錆を行います。
- 9** 湿気やホコリが少なく、子供の手が届かない場所に保管してください。

故障と思ったら

●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	始動スイッチボタンの不良	交換
	スパーク・プラグ不良	交換
	スパーク・プラグ・キャップ接続不良	調整
	イグニッションコイルの不良	交換
キャブレターに燃料が来ていない	燃料がはいっていない	燃料を入れる
	燃料ホースの詰まり、漏れ	ホース清掃、交換
	燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり	交換、フィルタ清掃
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレター詰まり（ニードル・バルブ固着）	キャブレター分解掃除
	オイルの入れすぎ	オイル交換
	オイルにガソリンが混ざっている	オイル交換

●シリンダが動かない

原因	対処
駆動シャフトの破損	メーカー、販売店に問い合わせ
プラグが液圧ホースの中に落下	液圧ホースの片側を外し、プラグを取り出し、ホースを戻す。調整
シリンダボルトの緩み	メーカー、販売店に問い合わせ
シャフトの位置ずれ	エンジン、ポンプ、シャフトの位置を調整
安全バルブ損傷	メーカー、販売店に問い合わせ
液圧オイルパイプの汚れまたは破損	メーカー、販売店に問い合わせ
液圧オイル不足	液圧システムをクリーニング、パイプ交換、オイル補給
方向バルブ損傷	メーカー、販売店に問い合わせ
方向バルブの閉塞	液圧システムクリーニング

●シリンダ伸縮スピードが遅い

原因	対処
ギアの損傷	メーカー、販売店に問い合わせ
真空ポンプの汚れ	直径太い、長さ短いホースの使用。ホースの清掃
エンジンスピードが遅い	メーカー、販売店に問い合わせ
真空ポンプの破損	メーカー、販売店に問い合わせ
オイル不足	オイル補給
オイルの汚れ	オイルタンクを清掃
方向バルブオイルの漏れ	メーカー、販売店に問い合わせ
シリンダー内部の損傷	メーカー、販売店に問い合わせ

故障と思ったら

点火プラグの点検 ※機種により、プラグの位置、プラグキャップやリコイルの形状等異なります。ご了承ください。

①プラグキャップを外し、付属のプラグレンチでプラグを外し、先端を確認します。



付属のプラグレンチで反時計回りで外します。振動等で緩まないよう少し固めに締め付けています。

先端が濡れている

先端は濡れていない

②燃料で濡れているため布等でよく拭きます。



③リコイルスターターロープを引いて（15～20回）、プラグ穴から燃料が出てこないか確認し、出てきたらよく拭き取ります。

②外したプラグをキャップに取付けます。



③エンジンストップレバーを握ります。（レバーをロープ等で固定するか、2人で行ってください。）

④プラグ先端をエンジン金属部に当てながら、リコイルスターターを引きます。



火花が出る

火花が出ない

プラグに異常はありません。プラグ先端の濡れは燃料の行き過ぎで起こります。再度エンジンをかけ、確認ください。それでもかからない場合は、他の原因が考えられます。

プラグの不良か他の原因が考えられます。購入先にお問い合わせください。

本規約は、ハイガー産業株式会社(以下「弊社」とする)を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日(ご来店引取の場合ご来店日)から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヶ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。(以下、この無料修理を「保証修理」とする)往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定が出来ない場合、保証が受けられない可能性がございます。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

- (1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6) 弊社が認めていない改造をされたもの
- (7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8) 注意を怠った結果に起きたもの
- (9) 薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象(退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等)
 - (11) 機能上影響のない感覚的な現象(音、振動、オイルのにじみ等)
 - (12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
 - (13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品(ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャーペン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等)
- (14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填(休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等)

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡いただきたく存じます。
またはお近くの修理協力店へご連絡くださいませ。
症状・使用状況を伺い、お手順方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料や水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合がございます。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただく場合がございます。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する場合がございます。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しできない場合がございます。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合がございます。
- ・無在庫転売(送り先が毎回違う購入者)の場合、転売より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

- アフターサービスについて■
1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
 2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合がございます。
 3. 保証期間(1年間)を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
 4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
 5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。

お客様ご相談窓口

故障部品をお客様で交換される場合

まず、ご購入された店舗にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料は全てお客様のご負担となります。

お客様

①故障の状況をメールまたはお電話でご連絡ください。また、故障箇所の写真等を、メールに添付してください。

④送料お客様ご負担で、代替部品を発送致します。

ハイガー産業または販売・修理店

- ②受付
- ③故障内容の確認

故障部品をメーカーで修理する場合

ネット購入や弊社で電話・FAXにてご購入の場合は、弊社にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担となります。

お客様

①故障の状況をメールまたはお電話でご連絡ください。また、故障箇所の写真等を、メールに添付してください。

②送料お客様ご負担で故障装置を発送してください。

⑤お見積り提示。

⑥送料お客様ご負担で、故障装置を発送いたします。

ハイガー産業

- ③受付
- ④故障内容の確認
- ⑥お見積り了承
- ⑦故障装置の修理

故障部品を販売・修理店で修理する場合

まず、ご購入された販売・修理店にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担となります。
遠方の場合の出張修理や引取り修理は、別途料金が発生致します。

お客様

①故障の状況をお電話でご連絡ください。その際、持ち込み修理*1か、引取り修理*2か、出張修理*3かを相談させていただきます。

⑤持ち込み修理の場合、修理完了後ご来店ください。引取り修理の場合は、修理完了後お届け致します。
※ご希望に応じて相談させていただきます。

販売・修理店

- ②受付
 - ③故障内容の確認
 - ④故障装置の修理
- *1 お客様ご自身が販売・修理店に製品を持ち込むことをいいます。
*2 販売・修理店がお客様のご自宅まで製品を引き取りに行くことをいいます。
*3 販売・修理店がお客様のご自宅まで行き、その場で修理を行うことをいいます。

修理、部品に関するご相談

修理依頼される時は、下記を事項ご連絡ください。

- ①ご注文番号
- ②商品名
- ③商品の型番
- ④故障の状況
- ⑤購入サイト、年月日
- ⑥お名前
- ⑦ご住所
- ⑧電話番号

修理、使い方などのご連絡窓口

お手数ですが、今一度本取扱説明書を熟読し、弊社のサイトや動画等を見ていただき、問題が解決しない場合は、下記までお問い合わせください。

- お問い合わせ先：下記カスタマー・サポート・センター

販売・修理店

販売・修理店は随時増えています。販売・修理店により修理対応機械が異なりますので、最新情報は下記サイトをご覧ください。

オフィシャルサイト ▶ <http://www.haige.jp/agency.html> ハイガー修理 検索

本店サイト ▶ <https://www.haigeshop.net/html/page3.html>

楽天サイト ▶ <http://www.rakuten.ne.jp/gold/haige/after.html>

ヤフーサイト ▶ <https://shopping.geocities.jp/haige/after.html>

※ハイガー産業は、顧客満足度100%を目指し、日々製品(部品やカラーも含め)の改良を行っています。そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

「製品のお困り事」は、カスタマー・サポート・センターへ。

「製品が利用できない」、「故障かな?」、「修理をしたい」、「パーツを購入したい」など、下記カスタマー・サポート・センターへ、お問い合わせください。



24時間365日
無休受付



カスタマー・サポート・センターお問い合わせ窓口

<https://haige.jp/c/>



ハイガー産業 株式会社

〒370-0503
群馬県邑楽郡千代田町赤岩3072-3

ハイガー 検索

<http://www.haigeshop.net/>



緊急の方へ

電話窓口

ご協力をお願い

重要なお問い合わせ

0276-55-2275

お電話が殺到しており、繋がりにくい状態が、続いております。ご迷惑をおかけしますが、緊急の場合を除き、インターネットからお問合せください。
お電話を頂く場合は、上記の URL のカスタマー・サポート・センターの「お問合せフォーム」を必ずご参考のうえ、お問い合わせください。ご対応に必要事項が記載されています。

受付：月曜日～金曜日 10:00～15:00 第1・第3・第5土曜日 10:00～12:00
受付中止：平日 12:00～12:50 ©定休日：第2・第4土曜日、日曜日、祝祭日